

神奈川からがんをなくす会(ACクラブ)

総 括

昨年度に比べて26年度は女性1名の入会にとどまった。従って現況は男性97名、女性101名で総数198名を数える。検診項目別の内訳は表1の如く男性では消化器+肺がん79名と消化器単独が4名である。これに反して肺単独は14名でやはり肺がんは注意すべき問題と考えられていることが判る。女性で肺単独は2名と少ない。女性で子宮がん、乳がんの項目に消化器を組み合わせたことが最多となり、これに肺を組み合わせたことは激減はするが18名が選択している。この点に関しては元来、肺、胃を対象にした“肺と胃のがんをなくす会”から発足した本会の特徴かと考えられる。

年齢構成は表2のようで50歳後半から70歳前半にピークがある。性差はない。消化器内視鏡検査と造影検査との関係は表3のようで結果的にがんはなかった。腹部超音波検査は132名に実施(表4)。便潜血による大腸がん検査は8例に陽性を認めたが未だに他機関での検査の有無を含めて結果が不明である。胸部X-Pに関しては喀痰細胞診を含めて表6、7、8の如くで著変はない。乳がん、子宮がんに悪性所見はない(表9、10)。

この他、付加検診は111名56%が受診していて結果は表11に示す。

消化器がん検診

がん検診としては胃X線検査、腹部超音波検査、便潜血反応があり、夫々、胃、食道、肝臓、胆嚢、膵、腎のがんに対して、また便潜血反応は大腸がんに対する一次検査の役割をもつ。本年度の消化器検査受診者は177名で男性83名、女性94名、このうち胃X線検査受診者は男性44名、女性50名、その中から要内視鏡精検指示を受けた者は12名でうち10名が内視鏡検査を受けた。胃がん発見はなかった。(表1、2、3)。超音波検査は132名が受診し男性60名、女性72名で1名が肝腫瘍疑いで精査指示を受けた(表4)。大腸がん検診は126名が受診し要精検者は8名、このうち1名が大腸ポリープを他医療機関により発見されたが、がん発見はなかった。2名は精査勧告されたが未受診であった。他に5名が他医療機関にて主治医相談となっている(表5)。

肺がん検診

総括で述べたように肺がん検診は3グループに分けられる。即ち、消化器検診とのみ併診するもの、これは男性の79名を占める。次は女性の選択肢で消化器及び子宮がん、乳がん検診との併診で男性に比べてかなり少ない。これは女性にとっては喫煙歴が男性に比べて激減していることから検診の主眼を子宮・乳腺にしているからに他ならない(表1)。表6は26年度に新たに指摘された所見及びそれに対する検査などであるがX-Pのみでは3例の何らかの所見に対してCT検査を行っているが腫瘍性病変

に結びつくものはなく、またCT検査(希望者にはoptionでCT検診)を行っているがいずれも経過観察となった。表7は喀痰細胞診の結果であるがA:検体不適が2.1%(3例)にみられる。かつて10%を超えていたCはここ数年0%である。表8は全検診において肺がんはなく他の慢性陳旧所見を含めての総所見数である。

乳がん検診

乳がん検診は現担当者に代わったときより、それまでの逐年マンモグラフィー(以下MMG)3方向(ML、MLO、CC)・視触診併用検診を改め、X線被爆量の軽減と高濃度型乳乳腺者の対策として現行の対策型検診より一歩進んだ超音波(以下US)を併用したMMGとUSを隔年で交互に併用する検診に切り替えた。受診者は前年の81例より66例とやや減少したが高齢者会員が多く、新規加入の会員が1名のみなので致し方ない。26年度は発見乳がんはない。前年の2名もACクラブ発足以来3名であり、初受診者が少なく、高齢者の再受診者が多いからであろう。受診者が少ないのでACクラブは乳がんに限れば効率が悪い。当協会の一般乳がん検診がかなり精度が高く、28年度より高濃度乳腺向きの3D撮影可能なトモシンセシスの新設運用も開始するので、ACクラブ特化の検診も不要と思われる。

子宮がん検診

平成26年度のACクラブの女性受診者数は101名であり、その中で子宮頸がん検診受診者は51名(50.5%)、子宮体がん検診受診者は45名(44.6%)であった。子宮体がん検診は、すべて子宮頸がん検診との併用で受診されることから、ACクラブの女性会員は一般の施設検診者と異なり、高率に子宮体がん検診を希望していることが推察される。年齢的に、ACクラブの女性会員のほうが、一般の施設検診者より高齢の方が多い(60歳代32.7%、70歳代43.6%、80歳代13.9%)こともその理由の一つと思われる。

平成26年度の検診者は、子宮頸がん検診で1名が要精検と判定されたが、結果的にがんは発見されなかったことは、喜ばしい結果と言える。

平成22年度より、希望で子宮頸がんに対するHPVテスト(ヒトパピローマウイルステスト; Hybrid capture II法)が受けられるようになった。実際にACクラブでは平成26年度は48人にHPVテストが施行され、48名陰性で、陽性は0であった。陽性が出た場合には、二次検診として精密検査(コルポスコピー、組織診断)が施行されている。

平成26年度に新入会された人は1名であり、受診者数は前年度(平成25年度110名)よりやや減少した。増加に向けてのさらなる努力が必要である。

関係の集計表は104頁に掲載